

一般財団法人 国際協力推進協会 主催

ミクロネシア写真展「南洋の光」

“Tropical Light” -Photographs by Floyd K. Takeuchi-

2017年5月12日(金) - 6月9日(金)



ご挨拶

私たちは2014年、上智大学とともにザビエル高校留学生制度を発足しました。この制度の下に、毎年優秀なザビエル高校卒業生1～2名が上智大学に留学しています。

ザビエル高校は、ミクロネシア連邦チューク州にあるイエズス会系の優秀校です。生徒はミクロネシア連邦、パラオ共和国、及び、マーシャル諸島共和国などから入学して、卒業生にはそれぞれの国の大統領や閣僚を輩出しています。

2015年4月、パラオを訪問された天皇陛下は、パラオ共和国、ミクロネシア連邦及びマーシャル諸島共和国の3大統領を前に、次のようにお言葉を述べられました。

「ミクロネシア地域は第一次世界大戦後、国際連盟の下で、日本の委任統治領になりました。パラオには、南洋庁が設置され、多くの日本人が移住してきました。移住した日本人はパラオの人々と交流を深め、協力して地域の発展に力を尽くしたと聞いております。」
(パラオ国主催晩餐会における天皇陛下のご答辞)

日本の委任統治領南洋群島では、南洋庁がパラオに設置され、現在のミクロネシアやマーシャルの各地に南洋庁支庁が設置されて統治が行われました。たとえば、学校が設置され、日本語での教育も行われました。

ミクロネシア地域（その後独立して、現在のミクロネシア連邦、パラオ共和国、マーシャル諸島共和国）の人びとはこれらのことを懐かしく記憶しています。しかしながら、私たち日本人は忘れつつあります。

今回、ミクロネシア連邦チューク州のチューク環礁、及び、ザビエル高校を撮影したフロイド・K・タケウチ氏の写真を通じて、ミクロネシア地域の人々と私たちの深い関係を思い起こしたいと思います。

一般財団法人 国際協力推進協会
理事長

佐藤嘉恭

ミクロネシア写真展「南洋の光」作者より

南洋を照らす自然と知識の光

赤道付近の熱帯地域には、特別な光があります。その光は、早朝には燃え上がるような太陽が夜の名残を焼き払うかのごとく、水晶のように澄みきっています。昼ごろになると、その光はぼんやりとしているものの、強烈になり、高い湿度と雲の中に包まれます。

この写真展では、2つの異なる熱帯の光を紹介しています。1つは、チューク環礁を取り巻く美しい島々に降り注ぐ、力強く、明暗鮮やかな自然の光です。もう1つは、ウエノ島にある「マブチ」という丘を静かに照らすしっかりとした光、知識の光です。この丘に位置する、イエズス会のミッションスクールであるザビエル高校こそが、60年以上にわたり、ミクロネシア地域のリーダーを育ててきた場所です。

この2つの光は、経済的な困難、社会的な重圧、将来に対して期待がもてないという現実によって結び付けられます。チューク州はミクロネシア連邦にある4つの州のうちの1つです。そこには、赤道近くの北西太平洋に広がる多様な島々や文化、言語があります。チューク州は、他の3州と比べて経済発展が遅れ、島民がグアム、ハワイ、アメリカ本土へ移住し続けており、また、21世紀に訪れる問題や好機に対応できる市民の育成を目指して苦慮している公教育にも見られるように、不成功の州だと言われています。

「南洋の光」写真展では、来場された方々にチュークは同時に、言葉では表せないほどの美しさを有する場所であるのだということを思い出していただけたらと思います。チュークの青と緑は豊かで深く、透き通るようなターコイズブルーの海は見る者を圧倒します。そして、「マブチの丘」ではザビエル高校が、年々、チュークにおいて優秀さと教育の成果を受け継いで行っていることを証明しています。

こうした意味で「南洋の光」というのは、神の光としての祝福であり、また、私たちはどこを「見よう」と何を「見よう」と、美と感動を見つけることができるという神からの助言と言えるのではないのでしょうか。

フロイド・K・タケウチ

“Tropical Light” -Photographs by Floyd K. Takeuchi-

Two Kinds of Tropical Light

There's a special light that one finds in the equatorial tropics – it is crystal clear in the early morning as a blazing sun burns away the last vestiges of night. By noon, the light often is hazy, still intense, but muted by thick humidity and clouds.

This photographic project celebrates two kinds of tropical light. The first is nature's light that bathes the beautiful islands within Chuuk Lagoon with a hard, contrasty light. The second is the light of knowledge, a steady light that glows quietly on a hill called “Mabuchi” on the island of Weno. That is where Xavier High School, a Jesuit mission school, has trained generations of Micronesia-region leaders for more than six decades.

Both types of light are linked by the reality of economic challenges, social stresses and the weight of lowered expectations. Chuuk State is one of four in the Federated States of Micronesia, a diverse collection of islands, cultures and languages that sweep across the northwest Pacific just above the Equator. Of the four states, Chuuk is often considered a near failed state for its lack of economic development, an ongoing Diaspora of islanders to Guam, Hawaii and the U.S. mainland, and a public education system that struggles to produce citizens ready to take on the challenges and opportunities of the 21st Century.

In “Tropical Light,” I seek to remind the viewer that Chuuk is also a place of almost indescribable beauty. Its blues and greens are rich and deep, its ocean a mix of crystalline blue and turquoise that stun the senses. And on Mabuchi Hill, Xavier High School proves every year, year after year, that excellence and education can go hand in hand in Chuuk.

In that sense, “Tropical Light” is a celebration of God's Light, His reminder that we can find beauty and inspiration no matter where we look or what we “see.”

Floyd K. Takeuchi

1 自然の光

ミクロネシア連邦

ミクロネシア連邦は北西太平洋にあるカロリン諸島に属する 607 の島からなる連邦国家です。総面積は 700 平方キロメートル、人口は 10.4 万人です。首都はポンペイ島のパリキールで、大統領制です。米国との自由連合盟約により、安全保障政策を米国に委任しています。主要産業は漁業や農業であり、日本へもマグロなどを輸出しています。一人当たりの GNI は 3,200 米ドルです。

ミクロネシア連邦と日本は極めて密接な関係があります。第一次世界大戦後、日本の国際連盟委任統治領となり、第二次世界大戦中はトラック諸島（現在のチューク諸島）をはじめ多くの島が日本軍の重要な根拠地として機能しました。また、明治時代の移民の子孫などミクロネシアには多くの日系人がいます。初代大統領トシオ・ナカヤマや第 7 代大統領マニー・モリを含め、多くの日系人が様々な分野で活躍しています。

日本がミクロネシア連邦と外交関係を樹立したのは、ミクロネシア連邦が米国から独立してまもない 1988 年です。2013 年には外交樹立 25 周年記念式典が開催され、モリ大統領（当時）は、「次の 25 年でさらに強い絆を結びましょう」と友好関係継続の重要性を強調しました。また、日本の ODA 支援や青年海外協力隊、上智大学のザビエル留学生などにより、教育や技術の面でも日本とミクロネシア連邦は深い繋がりがあります。

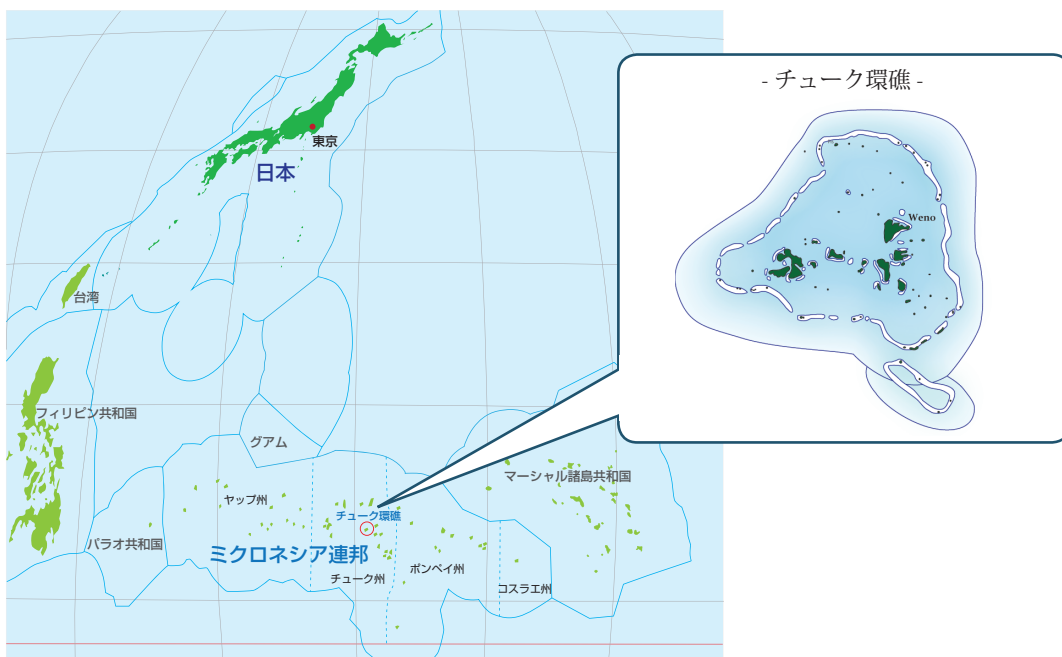
チューク環礁

チューク環礁は、北西太平洋カロリン諸島のミクロネシア連邦にある周囲 200 キロの世界最大級のサンゴ礁であり、日本の統治時代はトラック環礁と呼ばれていました。かつての火山島が数千年の年月を経て沈下し、その山頂が大小様々な島々を形成して、現在の環礁となっています。

チューク環礁は第一次世界大戦後、日本の国際連盟委任統治領の南洋群島の一部になり、戦時中は戦艦大和や戦艦武蔵が碇泊するなど旧日本海軍の一大拠点として機能した場所です。

なお、現在においても戦争の傷跡をみることができます。例えば、海底には輸送船などの艦船やゼロ戦などの航空機が眠っています。そのため、チューク環礁は戦跡を巡るダイビングスポットとして世界中のダイバーの注目を集めています。

本日紹介するザビエル高校は、チューク環礁の中にあるウエノ島（Weno、日本名春島）の丘マブチ・ヒルの上に建っています。



2 知識の光

ザビエル高校

ザビエル高校は、限られた資金ではありますが、無限の信念と献身の精神を持つというイエズス会のミッションスクールであり、60年以上にわたって西太平洋のリーダーたちを輩出してきました。ミクロネシア連邦の現大統領と前大統領2名がザビエル高校の卒業生ということがその結果と影響力の証です。また、パラオの大統領も、ミクロネシア連邦チューク州のウエノ島にあるこの小さな校舎で学んでいました。

ザビエル高校は、ニューヨーク教区のイエズス会士の手により、当初、神学校として1952年に設立されました。しかし、神父達は、すぐさま多くの神学生を育てるという目的も重要ですが、太平洋島嶼国において、日本の委任統治領のあと米国の信託統治領となった島々は、戦争で荒廃した自国で最終的に独自の政府を立ち上げ、独立できるように先導していくリーダーを必要としていることに気が付きました。

1956年に第1期生が卒業し、1970年代半ばに女子生徒の受け入れも開始しました。何年もかけて、「日本の建物」から多くの教室や図書室、そして男子寮へと規模を拡大していきました。横浜にある「馬淵組（現 馬淵建設）」という会社が第二次世界大戦以前に建設し、日本帝国海軍の主要な通信所として使われていた日本時代の建物は、未だに使われており、数年前には馬淵建設による修復が行われました。

昔から学校の規模は変わらず、9年生から12年生まで全校生徒合わせても、学生数は200人に達しません。さらに、厳格かつ知的な自制心、振る舞い、他者への献身的な姿勢、そして芯の強い忠誠心も変わることはありません。興味深いことに、多くのローマ・カトリックの生徒が在籍する一方で、プロテスタントの学生も在籍しています。

太平洋島嶼国では、公教育がどのように現代社会に適応した教育を生徒に提供できるか悩んでいるなかで、ザビエル高校は、献身の精神、集中、規律、永遠の信仰によって何が可能になるのかを改めて考えさせてくれます。

Xavier High School

Xavier High School is a Jesuit mission school that has, with limited financial resources but with unlimited faith and dedication, trained most of the Western Pacific's leaders for more than 60 years. As a sign of its reach and influence, the current and two immediate past presidents of the Federated States of Micronesia are Xavier graduates. The president of Palau also attended the small school on Weno Island in Chuuk State, FSM.

Jesuits from the New York Province opened Xavier High School in 1952 initially as a seminary. But it quickly became apparent to the priests that while more seminarians was a worthy goal, the islands of the then Trust Territory of the Pacific Islands, formerly the Japanese Mandated Islands, desperately needed leaders to guide the war-torn islands to eventual self-government and independence.

The first graduating class matriculated in 1956. The school admitted girls in the mid-1970s. Over the years, the school expanded from its "Japanese building" to numerous classrooms, a library and boys dorm. The original Japanese-era building, built before World War II by the Mabuchi Company of Yokohama as the major communications center for Japan's Imperial Navy, is still in use, rehabilitated a few years ago by Mabuchi.

What hasn't changed is the school's small size – fewer than 200 students in grades 9 through 12 – and a reliance on rigorous intellectual discipline, high expectations of behavior, a dedication of service to others, and a strong core of faith. Interestingly, while most students are Roman Catholic, there are many Protestants, too.

In a part of the Pacific where public education has struggled to prepare students for contemporary life, Xavier is a reminder of what is possible with dedication, focus, discipline and abiding faith.



Lagoon Light Eleven - 環礁の光 11-

我々のボートがゆっくりとチューク環礁を横切ると、この小さな無人島が水平線に現れた。嵐雲が島と一列に並ぶのを待って、カメラのシャッターを切った。

This small, uninhabited island appeared on the horizon as our boat slowly made its way across Chuuk Lagoon. I waited until the reflection of the storm cloud lined up with the island, and then made the photograph.



Lagoon Light One - 環礁の光 1-

船と浜辺、青い空と海——チューク環礁を一望する。

A boat, a beach, blue skies and the sea — Chuuk Lagoon in one view.



Lagoon Light Seven - 環礁の光 7-

太平洋諸島の上にそびえる雲は、それが覆う島と同じくらい美しい。

The clouds over Pacific Islands are as beautiful as the islands they tower over.



Lagoon Light Eight - 環礁の光 8-

この写真は日の出直後に撮影したものであるが、島はまだ陰の中にある一方で、雲は既に太陽の日差しを浴びている。

This photograph was taken just after sunrise, when the land was still in the shadows but the clouds captured the sun's bright rays.



Lagoon Light Four - 環礁の光 4-

小さなボートがチューク環礁を行き来する。水上タクシーは一日中、人々を島から島へと運んでいる。

Small boats ply Chuuk Lagoon, water taxis taking people from one island to another all day long.



Lagoon Light Ten - 環礁の光 10-

チューク環礁を横切るボートの後を追って行った時の水面はまるで鏡のようであった。

The water was like a mirror as we followed a boat heading across Chuuk Lagoon.



Lagoon Light Three - 環礁の光 3-

嵐が近づいてきていたが、この小さな島に降り注ぐ光は完璧だった。その後、空に虹がかかった。

A storm was coming, but the light on the little island was perfect. Then the rainbow formed in the sky.



Lagoon Light Nine - 環礁の光 9-

ウエノ島の広々とした深緑の森林とココヤシの森の中に、チュークのローマ・カトリック大聖堂が建っている。

Chuuk's Roman Catholic cathedral stands out against a dark green expanse of trees and coconut palms on Weno Island.



Lagoon Light Five - 環礁の光 5-

果てしなく続く海、広々とした空と雲、そして小さな島々——これが私の考える「ミクロネシア」だ。

An endless ocean, a broad expanse of sky and clouds, and small islands — that's how I think of Micronesia.



Lagoon Light Six - 環礁の光 6-

南洋の暑い日差しの下で、この小さなプライベートアイランドの日陰が私を歓迎していた。

The shade on this small, privately-owned island was welcoming in the hot tropical sun.



ザビエル高校、マブチの丘にて

Xavier High School, Mabuchi Hill

ザビエル高校の校舎はマブチの丘の頂上に位置している。マブチの丘というのは、横浜の建設会社馬淵建設の名前に由来するもの。右上の二階建ての大きな建物は、第二次世界大戦の前に旧日本海軍の通信施設として同社が建てたものである。

The Xavier High School campus sits atop Mabuchi Hill, named for the Yokohama construction firm that built the large two-story building at upper right as a communications station for the Japanese Imperial Navy before World War II.

Xavier High School Students

ザビエル高校の生徒たち



Science Lab 理科実験室にて

3年生が理科の実験の準備をしている。設備は簡素に作られているが、学習内容は深い。

Students prepare for a junior class science lab. The facilities are simple, but the learning is profound.



Reminder of Faith 信仰心を思い出す

物理学の授業でノートを取っているペンに付いているのは小さな十字架。生徒自身がローマ・カトリック信者であることを思い起させるためのものだ。

A small crucifix, attached to a pen taking notes in physics class, is a simple reminder of a student's Roman Catholic faith.



Retreat, Pissar Island ピサル島での合宿

4年生たちはお互いの絆を深めるため、卒業直前に一度だけ最後の合宿をする機会がある。この写真は、マーシャル出身の男子生徒が、ヤップとパラオ出身の同級生の女子生徒のためにウクレレを演奏して楽しませているところ。

Seniors have one last chance to bond as a group during their final retreat just before graduation. In this photograph, a Marshallese boy strums a ukulele to the delight of his classmates, girls from Yap and Palau.



Pelvic Inflammatory Disease 骨盤内炎症性疾患

科学の授業で2年生の生徒たちが協力して、「骨盤内炎症性疾患」について発表しているところだ。ザビエル高校では、共に助け合いながら学ぶことが大切だと考える。

Xavier High School believes in collaborative learning, as seen in this photograph of sophomores working together to define pelvic inflammatory disease in science class.



Omi at Sunrise 日の出とオミ

パラオから来たオミ・アデルバイ（当時4年生）が、朝日に照らされた流木の上に座っている。オミは、チューク環礁のピサル島での4年生の合宿に参加していた。

Omi Adelbai of Palau, a senior at the time, sits on a large piece of driftwood illuminated by the first rays of morning light. Omi was participating in the senior class retreat on Pissar Island in Chuuk Lagoon.



フロイド・K・タケウチ

Floyd K. Takeuchi

フロイド・K・タケウチはホノルルに拠点を置く取材ライター・写真家で、特にアジア太平洋地域の伝統文化がいかにして今日の社会に適応していくのか、ということに関心をもって活動をしています。

伝統と現代性の交わりに対するタケウチ氏の関心は、彼の生い立ちを反映したものです。タケウチ氏は日系アメリカ人3世として、マーシャル諸島のマジュロで生まれ育ちました。また、メリーランド州のボルチモア、北マリアナ諸島のサイパン、マサチューセッツ州のボストン、グアム島のハガニア、フィジーのスバ、日本の東京、そしてハワイ州のホノルルで過ごした経験があります。それぞれの地域で、タケウチ氏は、必ずしも自身のものではない伝統や慣習を「外」の立場から観察し続けました。

タケウチ氏の40年のキャリアとして、第一に挙げられるのはジャーナリズムにおけるものです。新聞記者、新聞編集者、ラジオニュースのディレクター、ラジオやテレビの特派員、雑誌編集者や発行者を経験し、2つのマスコミ会社と持株会社の代表を務めました。また、ハワイ選出議員の報道官としても活躍しました。最近では、ハワイにある数十億ドルの資産を有する企業の広報担当執行役員やコミュニケーション戦略アドバイザーを務めています。

写真家としての経歴を見ると、ハワイ大学マノア校、ハワイ大学イースト・ウェスト・センター、ホノルル・クラブ、オアフ・カントリークラブ、そして自身がアーティストメンバーをつとめる区民センターのギャラリーにおいて作品を展示したり、ホノルルで多数の個展を開催したりしてきました。さらに、2014年には、ホノルルで開催された審査展示会「Elements」にて、フロイドの作品「Paulani」が最優秀賞を受賞しました。

タケウチ氏はこれまでに、電子書籍のほか自身の作品に関する書籍を4冊出版しています。また、フロイドはオセアニアに特化した写真代理店「Waka Photo」のメンバーでもあります。

タケウチ氏の作品は www.floydtakeuchi.com で見る事が出来ます。

Floyd K. Takeuchi is a writer-photographer who is based in Honolulu, Hawaii. He's particular interested in how traditional cultures in the Asia-Pacific region adapt to contemporary society.

His interest in the confluence of tradition and modernity is a reflection of his upbringing. Floyd is a third-generation American of Japanese ancestry who was born and raised on Majuro Atoll in the Marshall Islands. He's also lived in Baltimore, Maryland; Saipan, Northern Mariana Islands; Boston, Massachusetts; Hagatna, Guam; Suva, Fiji; Tokyo, Japan; and Honolulu, Hawaii. In each place, he's been an outsider observing traditions and customs that were not necessarily his own.

Floyd's 40-year professional career has been primarily in journalism. He's been a newspaper reporter and editor; a radio news director; a radio and television correspondent; a magazine editor and publisher; and, he served as president of two media companies and a holding company. He also served as press secretary to a Member of the U.S. Congress from Hawaii. Recently, he has been a public relations executive and strategic communications adviser to multi-billion dollar enterprises in Hawaii.

In his photographic career, Floyd has had numerous solo shows in Honolulu, including major exhibits at the University of Hawaii-Manoa, East-West Center, the Honolulu Club, Oahu Country Club, and Gallery at Ward Centre, where he was an artist-member. He also won "Best in Show" for his photograph, "Pualani," at the 2014 juried group exhibit "Elements" in Honolulu.

Floyd has published four books featuring his photographs and writing, as well as an e-book. He is a member of Waka Photos, a photo agency that specializes in Oceania.

More on Floyd's work can be found at www.floydtakeuchi.com.

一般財団法人 国際協力推進協会 主催

ミクロネシア写真展「南洋の光」

“Tropical Light” -Photographs by Floyd K. Takeuchi-

2017年5月12日（金）－6月9日（金）

入場無料

会場 上智大学 四谷キャンパス 2号館ロビー

主催 一般財団法人 国際協力推進協会（APIC）

共催 上智大学・国際機関 太平洋諸島センター・一般社団法人 太平洋協会

後援 外務省・ミクロネシア連邦資源開発省・駐日ミクロネシア連邦大使館・公益財団法人 水交会・日本経済新聞社

上智大学 四谷キャンパス アクセスマップ

Sophia University Yotsuya Campus Access Map



JR 中央線 四ツ谷駅 麹町口から徒歩約 3 分
東京メトロ 丸の内線 四ツ谷駅 3 番出口から徒歩約 5 分
東京メトロ 南北線 四ツ谷駅 赤坂口から徒歩約 5 分